

闘いは職場から

夏から秋の闘いへ 各支部で取り組み始まる

7/3-8 千葉転支部 対話オルグを実施

千葉転支部は、七月三日から八日まで、全組合員対象の対話オルグを実施し、組合員と役員との意思疎通を図ってきた。オルグは、一日二回に分け、勤務外の役員とのひざをつき合わせた対話会となり、今後も積極的に対話会、集会等を開催していくことを確認した。普段なかなか言えないようなことも今回は、かなり出されたといえる。もっとも多い意見としては「昇進試験への差別は明らかだ。もっと抗議すべき」「乗務がかなりきつく疲れる」「休みが入らない」「夏季輸送後の要員状況と今後の展望」「詰所が狭く問題だ」等々が出された。

特に、怒りをこめて、出された意見として「鉄道労連・革マル分子は、なにかにつけて優遇されている、年休など即優先されている、許せぬ」といった労組差別への怒りが全組合員に充満していることが新たに判明した。

今後、対現場当局の不当、不法行為について組織的にとりくんでいくことを確認した。

当面の取り組みとして、夏季物販をやりきり、全体の親睦と団結を固めるために十一日、「転入者歓迎会」を開催し、それをバネに七・八月闘争を前進させていく方向である。

7/3 京葉支部 小なりともファイトをもって

京葉支部は七月三日、執行委員会を開催し、昇給・ボーナスカット状況の把握、昇進試験差別の実態をつかみ、それへの反撃を確認した。

京葉支部は小なりといえどもファイトをもって闘いの先頭にたつて奮闘しぬことを確認。営業の仲間と運転の仲間が一体となってJR当局と鉄道労連野合体制をぶち破るためにたたかっていく。

7/3 幕張支部 職場集會開催

幕張支部は、七月三日執行委員会、同日、職場集會を開催した。とりわけ、職場集會では、幕張支部の組合員八十数名が参加するなか、石幡支部長が、自らの生い立ちや組合における活動歴等もまじえ、さらに支部長就任の断固たる決意をこめたあいさつを行い、当面する物販闘争、清算事業闘争への総決起を訴え、満場の拍手で確認された。

続いて、白井副支部長が参院選勝利にむけた情勢、取り組みを報告し、さらに本部より山田執行委員が今秋清算事業闘争勝利にむけた訴えを行った。

幕張支部は、石幡新支部長の下、若い執行体制を確立し、新たな出発を開始した。組合員の意見、

7/1 総武支部 営業支部こそ先頭に

総武支部は、結成後(六月二日)、初の執行委員会を七月一日開催し、結成の意義と当面の取り組みについて確認した。

吉野書記長の方針提起を受けて討論を行った。出された質問は、「昇給カットについて現場当局は何ら説明していない、支部としても抗議すべき」といった意見が出され、今後総武支部としても対応していくことを確認した。

総武支部は、それぞれが浅草橋から千葉駅までの広範囲に点在しているなかで日常活動が相当むずかしいが、会議をキチッと開催し、可能な限り非番者集会を月一回は追及していくことを決定した。

総武支部は、組合員が全員営業への強制配転者で占めている実情を認識し、われわれの運動の横への拡大のためにも、長田支部長を先頭にがんばる決意である。

批判を真摯に受けとめ、なんでも腹を割って話せる明るい組合づくり、職場づくりを行っていく決意である。

幕張支部新三役

- 支部長 石幡 佳和
- 副支部長 白井 忠博
- 書記長 小沢 勇

89年夏季販売

いよいよおいこみです
 目標達成までがんばろう